令和6年度　江戸川区立北小岩小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○心豊かでやさしい子 ○よく考え表現する子 ○体をきたえ元気な子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「誠実さ(品位)・情熱・自律(規律)・結束・敬意」の５点を軸に教育活動を常に評価・検証し、主体的に業務改善に努める学校 ○個性を生かし「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を獲得する児童 ○自己研鑽と研究・研修に励み、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性を身に付け、教育課題の解決に努める教師
前年度までの本校の現状	成果：生活指導上の課題には迅速に対応でき、大きな問題にはならずに解決することができた。特にエンカレッジルーム対応の児童への手立て等は学校全体の共通した認識で実施することができた。	課題	今後も体育科や道徳科の学習でオリンピックレガシーに取り組み、継承していく。全国学力調査において、算数科では東京都の正答率を下回ったので、少人数指導や補習等の体制を見直し、改善に努める必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	.	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	授業改善の推進	「学校独自の学力調査」実施	算数科の学年平均点を全学年７５点以上とする	C	B	C	年度当初と１学期末を比較すると、スコアが低下した学年があり、後半の巻き返しのため策を実施する。	C	学校独自の学力調査と区調査の効率的な活用を望む。	C	主体的対話的で深い学びの実現に向け、相互観察授業を日常的に実施したり、教材の開発を共用したりと工夫を重ねている。	B	公開時の授業では児童に探究させる内容で意欲的に取り組んでいる様子が見られた。	思考ツールの日常的な活用や特別活動を軸にした校内研究での話し合い活動の充実を図り、主体的対話的な学びを実現する。
	学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	「学びタイム」…週３回５校時前の１０分間　計算や漢字等ドリル学習に充てる	年間実施率を９５％以上とする	A	A	A	週３回の時間確保でこれまで授業時間内で対応していた事業が安定実施できるようになった。	B	日課表の工夫による時間の捻出は評価できる。	B	特定の児童の学力不振が十分に解消できていないが、全体的な底上げは見られた。	A		学びタイムの継続と学びのアルバムの併用を実現し、児童のメタ認知能力を向上させる。コグトレの導入も継続していく。
	○読書科の更なる充実	探究的な学習や学校図書館を活用する授業の実施	探究的な学習の実施…年3回以上 学校図書館を活用する授業の実施…週1回以上児童アンケート肯定的な回答　80%以上	B	B	B		B	今年度、調べる学習コンクールへの出展数が拡大したことは評価できる。	B	年間指導計画に則り確実な指導を展開したことにより、児童の読解力や資料活用能力の向上に繁栄された。	B	タブレットだけでなく図書を積極的に使って調べ物をしている子供の様子が見られた。	調べる学習コンクールへの出展を一つの目標として、読書科の充実を図る。
体力の向上	運動意欲や基礎体力の向上	運動遊びの実施…年25回以上	実施率を９５%以上とする 体力テスト体力合計点全学年全項目で東京都平均を上回る	A	A	A	時間設定と確実実施の他にも遊びの幅を広げる環境設定が充実した。	B		A	運動遊びの環境整備を夏季休業中に行い、定期的な全校取り組みが功を奏し、児童の運動時間の増加に明確な影響が現れた。	A	コロナ明けということもあるが、子供が外で体を動かす機会がとても増えた。	運動遊びの場をさらに増やしていく。体育科授業における指導内容等の工夫を図る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	コーディネーター、特別支援指導担当教員、外部講師による特別支援教育研修	・学期に2回実施	A	A	A	特別支援巡回指導教員の企画運営で通常学級教員のニーズに合わせた内容の研修が実施できた。	A	今後ますます学校で必要とされる特別支援教育の情報をしっかり研修を通して充実させてくれることが安心となる。	A	学校公開時の教室開放や保護者会時の相談コーナー設置など積極的に理解啓発活動を展開した。	A	個に応じた対応で子供自身がエンカレッジルームでの授業楽しみにしている。	通常級での「構造化」の浸透を確実に進めていく。 理解教育を教員・児童の他学校公開等で保護者にも発信していく。
不登校・いじめ対応の充実	教育相談の強化	一人一台端末を活用した教育相談の充実	不登校児童との月1回以上のオンライン面談	C	C	C	通信環境等の理由で面談実施が困難な時期があった。強要ができないので様子を見つつ、チャンネルを確保していく。	C	保護者の負担、学校の置かれた状況は分かるが、何とか上級学校へ進学する前に改善が図られたい。	C	長時間の動画視聴や視力低下についての保護者不安が一向に減少していない。	C	家庭での使用制限を学校主導で行ってほしい。	
	hypaer-QUの活用	hyper-QUの実施と結果の校内共通理解の場を設定	「Q-U」学級満足度要支援群出現率10%未満	B	B	B	児童心理面のエビデンスとして校内で十分活用する体制はできている。	B	教師の感覚や経験だけでなく、客観データとして分析できることは望ましい。	B		B	子供の学級での居場所を可視化できていることは望ましい。	
地域社会に開かれた学校（園）の実現	学校（園）ホームページの充実等	定期的な学校ホームページの更新を継続する	週1回以上の学校ホームページの更新	B	A	A	学校日記投稿、毎月のお便り掲示を継続して実施している。	A	ホームページの仕様も変わり見やすくなった。記事の掲載も頻繁でよい。	A		A	子供の学校での様子や校外学習時の進行状態がよく分かってよい。	継続実施
	学校（園）公開の実施・充実	保護者参加型の学校公開	全学級とも保護者参加型の授業公開を年1回以上実施する	A		A	ゲストティーチャーの機会を増やし、保護者の参加型が全学年とも拡大した。	A	感染症対策時に比べ以前のような保護者等の来校頻度となり喜ばしい。	A	児童の学習状態を保護者等に見てもらう機会が増加し、学校への理解も深まったように感じる。	A		年間３回の土曜授業と振替休業日の扱いを検証していく。
	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	年３回の学校関係者評価委員と中間評価、最終評価の公表	保護者アンケート肯定的な回答80%以上	B		B	学校関係者評価ではわかりやすい質問項目の作成に苦慮した。	A	学校評議員会の開催等が以前のように実施でき喜ばしい。	A	年２回の実施や質問項目の改善、回答方法の工夫などで大幅に回答数が増加し、次年度経営に生かすことができた。	A	回答法をオンラインにしたり、分からない質問項目が減少して答えやすくなった。	さらなる改善実施。
特色ある教育の展開	「なかよし班活動」の取組による畏敬の念や思いやりの心の育成	なかよし班活動…月１回以上 ロングなかよし班活動…２学期以降月１回	児童アンケート肯定的な回答80%以上	A		B	特別活動を通して児童の育成をさらに図っていく。	B	登校班当校での登校を含め上級生が下級生の面倒を見る風土が北小岩小にはある。	A		B	年間を通した活動は子供たちの情操に効果を与えていると思う。	校内研究で特別活動wp引き続き取り上げ進めていくとともに、児童の変容を検証していく。
	俳句指導による思考力・表現力の向上	俳句の作成…年４回以上 句会…年２回以上 俳句コーナーの更新…年５回以上	児童アンケート肯定的な回答80%以上	B		B	計画的に実施し、本校の学習活動の根幹に位置づけていく。	B	北小岩小の伝統的な教育活動として今後も継続を希望する。	A	開校７０周年記念事業にも有効に活用ができ、児童だけでなく保護者や地域の方々にも浸透した。	A	全校で取り組むので作品の変容が見られて来校が楽しみになっている。	ビルド＆スクラップは意識しつつ、児童の学びや区や都の教育施策に対応した事業の展開を図る。